平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	原価計算論A (Cost Accounting A)			授業コード	E043401
担当教員名	工藤　順一			科目ナンバリングコード	E20604
配当学年	2	開講期	前期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	公務員になっても企業に就職しても、原価(コスト)削減を求められます。というのも、売上はなかなか伸ばせませんが、コストは努力次第で下がります。コストを削減するには、まずコストを知ることです。この授業では、皆さんと一緒にモノの原価を計算していきたいと思います。				
受講心得	1. 毎回必ず出席してください(欠席すると講義がまったく理解できなくなる恐れがあります)。 2. 電卓を必ず持参してください。				
教科書	TAC簿記検定講座著『合格テキスト日商簿記2級工業簿記　』TAC出版				
参考文献及び指定図書	随時紹介します。				
関連科目	簿記入門、管理会計論、監査論				

授業の目的	私達がスーパーやデパートで買う商品には、値段がついています。その値段は、製造・仕入れにかかった「原価」と「儲け」が含まれています。(実際は、消費者が求める値段が先にあって、その値段から儲けをひいて、原価を決めることになります)。本講義では、「原価」とはどういうものであるのか。「原価」を構成する要素にはどういうものがあり、どのようにして原価を計算するのか。そして、原価を下げるにはどうしたらよいのか等を一緒に考える講義にしたいと考えています。
授業の概要	授業は、テキスト、レジュメを中心に進めます。また、次回の授業の最初に、復習の意味で、前回講義の練習問題を解いていただく形で進めていきます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： 原価計算とは何か 工業簿記及び原価計算の基礎について商業簿記と比較しながら勉強していきます。	レジュメを復習しながら、工業簿記とは何かの問題を解いてみましょう。
第 2 週 ： 材料費の材料の購入原価について 原価の3要素のうち、材料費について、その分類・購入原価について学習していきます。	レジュメを復習しながら、材料費とは何かの問題を解いてみましょう。
第 3 週 ： 材料費の計算 材料の消費数量について、継続記録法・棚卸計算法を学び、材料の消費単価については平均法・先入先出法等について学びます。	レジュメを復習しながら、消費数量とは何かの問題を解いてみましょう。
第 4 週 ： 労務費の分類 次に、原価3要素のうち、労務費について、その分類及び労務費の計算について学習をしていきます。	レジュメを復習しながら、労務費とは何かの問題を解いてみましょう。
第 5 週 ： 賃金の支払い額と消費額について ここでは、給与計算期間と原価計算期間のズレや未払い賃金、直接工の消費賃金の計算について学びます。労務費の計算のうち、予定消費賃率を用いる計算について学びます。	レジュメを復習しながら、予定消費とは何かの問題を解いてみましょう。

第 6 週 ： 経費の分類と消費額の計算について 原価の3要素の最後は、経費についてです。ここでは経費の分類、経費の4つの消費額の計算方法のうち、支払経費について学びます。	レジュメを復習しながら、経費とは何かの問題を解いてみましょう。
第 7 週 ： 経費の分類と消費額の計算について （2） ここでは経費の4つの消費額の計算方法のうち、残りの3つについて学びます。	レジュメを復習しながら、経費の分類とは何かの問題を解いてみましょう。
第 8 週 ： 個別原価計算　製造間接費の意義 個別原価計算とは何か、製造間接費の賦課・配賦について配賦基準等を学習し、製品への実際配賦を学習していきます。	レジュメを復習しながら、間接費に関する問題を解いてみましょう。
第 9 週 ： 製造間接費の配賦差異・差異分析 ここでは、予定消費額と実際消費額との差異である製造間接費配賦差異について、予算差異、操業度差異等に分けて学びます（主に、公式法変動予算による差異分析）。	レジュメを復習しながら、間接費の配賦差異に関する問題を解いてみましょう。
第10週： 部門別原価計算(1) まず製造部門とは何か、補助部門とは何かを学び、次に、製造間接費を部門ごとに集計するに当たり、製造間接費を部門個別費と部門共通費に分け、それらを各部門に賦課（配賦）する方法を学習します。	レジュメを復習しながら、部門に関する問題を解いてみましょう。
第11週： 部門別原価計算(2) 製造間接費を部門個別費と部門共通費に分け、それらを各部門に賦課（配賦）しますが、そのほうのうち第1次集計を前回学んだので、今回は2次集計についての学習します。	レジュメを復習しながら、間接費の1次集計に関する問題を解いてみましょう。
第12週： 個別原価計算の総復習（1） 練習問題を解きながら、これまでの学習の総復習をします。材料費・労務費の分類と消費額の計算を予定配布等を使いながら行います。	レジュメを復習しながら、材料費と労務費に関する問題を解いてみましょう。
第13週： 個別原価計算の総復習（2） 練習問題を解きながら、これまでの学習の総復習をします。製造間接費について、配布差異の分析を行いながら、部門別個別原価計算問題を解いていきます。	レジュメを復習しながら、部門原価に関する問題を解いてみましょう。
第14週： 個別原価計算の総復習（3） 練習問題を解きながら、これまでの学習の総復習をします。経費分類とその計算方法を問いていきます。	レジュメを復習しながら、経費分類に関する問題を解いてみましょう。
第15週： 個別原価計算の総復習（4） 練習問題を解きながら、これまでの学習の総復習をします。部門別計算の問題を解いていきます。	レジュメを復習しながら、部門個別費に関する問題を解いてみましょう。
第16週： 期末試験 すべての講義に関して総復習の意味でのテストを行います。 計算機の持ち込みはOKです。	試験問題の回答を配布しますので、自宅で復習しましょう。

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	塗装業を承継した若い人から「お客様に見積もりを提出したいがどうしたらいいかわからない」という相談がありましが、原価がわからないと、見積もりもできません。将来に備えて、まず原価へ関心を持ちましょう。
【知識・理解】	個別原価とは何か、どうやって計算するのか、といった基礎的な知識を身につけ、理解しましょう。そのためには、基礎的な用語に慣れ、理解することです。
【技能・表現・コミュニケーション】	基礎知識を元に、練習問題を解いていきます。また、見積書を作成しましょう。種々の図や公式を理解し、使えるようにしましょう。
【思考・判断・創造】	原価計算関連のDVDや新聞記事を紹介します。皆さんは、なぜそうなるかをよく考えて、解法を判断してください。できれば日商簿記検定2級の工業簿記に挑戦しましょう。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点		10点	
【知識・理解】※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	20点			
【技能・表現・コミュニケーション】※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	20点	10点		
【思考・判断・創造】※「考え抜く力」を含む。	10点	10点	10点	

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	原則として、講義の最初に、前回の講義の復習問題を出します。提出をもって出席に代えますので、遅刻せずに問題を解いて提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。Sレベル:達成目標を満たしている。Aレベル：ほぼ満たしている。Bレベル：なんとか満たしている。Cレベル：一部分満たしている。
発表・その他（無形成果）	授業の中で適宜質問します。質問に対する解答については、成績評価において加点することがあります。